

社会福祉法人 黒松内つくし園 老人福祉施設

慶和園



祝ご長寿！慶和園にマグロが来た～！！ 2022年度 敬老会

9月16日慶和園では養護・特養のご利用者が一堂に会し敬老会を開催致しました。新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されましたが、予防対策を徹底することで盛大にお祝いすることができました。ご利用者の長寿を祝うと共に日頃からの感謝の気持ちを込めて、会場の装飾や食事の提供、余興の披露を行っています。今年の余興の一つはマグロの解体ショー！！さばいたマグロは目の前でお寿司にしてご提供。大トロ、中トロは、「じゃんけんゲーム」で勝利したテーブルへ運ばれ、会場に歓声が響きました。「今伝えたいメッセージ…」では、ご利用者一人ひとりに届いたご家族からのメッセージを紹介。ユニット職員がご家族にかわりに代読させていただくと、感動のあまり涙ぐむ姿が会場のあちらこちらで見られました。



今年の実行委員会は8月中旬からの準備となりました。短い準備期間の中で、ご協力いただいたご家族の皆様、関係各種の皆様、誠にありがとうございました。おかげ様で大盛況な敬老会をすることができました。

実行委員長 宇治 伸耶

洪水想定の防災訓練を実施

慶和園では9月7日に今年度2回目となる防災訓練を行いました。今回は尻別川の氾濫による洪水を想定した避難訓練で、町内会から2名、京極役場総務課より1名の参加協力を得ています。特養、養護合わせて71名のご利用者が参加。洪水想定となる為、1階特養のご利用者はエレベーターや階段を使用して職員と一緒に2階へ避難。その後必要物品（重要書類・非常食・備蓄品など）の運搬においても職員同士が協力してスムーズに対応する事ができました。訓練終了後には、現在慶和園施設前にて進められている「緊急避難道路の設置工事」に関する概要説明など「町の防災対策」の講話（講師：京極町役場吉田様）を行い、ご利用者・職員の防災意識の向上を図ることが出来ました。



『慶和園だより』NO.261 令和4年10月10日発行
〒044-0132 虹田郡京極町字更進780番地1

TEL(0136)42-2201 FAX(0136)42-2209

編集発行：老人福祉施設 慶和園 広報委員会

発行責任者：施設長 深谷 剛

※「慶和園」だよりに掲載の個人情報は、ご本人もしくは、ご家族様の許可を得て使用させて頂いております。

◎今月の羊蹄山：10月5日羊蹄山に初雪が降りました。いよいよ雪シーズンの到来です！

慶和園の D&I

多様な価値観・働き方を紹介

働き手不足の救世主 介護職員のサポート



「週末からの3連休、平日勤務のパートスタッフがお休みなので、出勤スタッフの負担が大きい・・・」介護スタッフの声から生まれた、介護サポート業務（手が足りない時間帯へのサポート業務）。土曜日から月曜5時から8時まで、お食事の準備と配膳・下膳と後片付け、洗濯物の整理など間接的支援業務として稼働中です。担当しているのは、町内にお住まいの、寺崎かおる職員（67歳）です。「ここで働かせてもらって、早いもので5年になります。勤務中は、とにかく休む間も無くやることが沢山あるんですよ。」と、本館及び新館ユニットを段取りよく巡り、介護員のフォローアクションを卒なくこなしてくれます。「趣味は読書。仕事で動く分、お家ではのんびりしています。」とのことでした。



-慶和園運営方針-

・慶和園はひとつ。ご利用者・職員で慶(喜)びの和を大切にします。

－私たちは、チームでご利用者の想いを実現させます－

・慶和園は一人ひとりを大切にします。

－私たちは、自分以外の全ての人に対する真心をもって親切丁寧に接します。

・慶和園は地域とのつながりを大切にします。

－私たちは、地域における役割を理解し信頼を得られる行動をとります。



慶和園「わたしたちの深化・進化」
～各ユニット 2022年度・取組紹介～

看護部門「安心安全のための情報共有」

2022年度の慶和園運営テーマは、「ご利用者のために深化宣言！」～私たちも進化しよう！！～です。そこで、今年度の各セクションにおける‘しんか’の取組を紹介させていただきます。今日は「看護部門」からの紹介です。



看護部門では、前年度より看護職員の業務内容の見直しを行っています。生活支援施設の看護職員の役割を基本とし、各職員が担当ユニットに所属。ご利用者と直接的にかかわる機会を増やす体制（ご利用者の状態把握の一環として、嚥下状態の把握（食事介助）や皮膚状態の観察、リハビリ活動、レクリエーション活動への積極的な参画など）づくりを進めることができました。



今年度は、昨年度定着した各担当ユニットにおけるご利用者とのかかわりを更深め、主治医の指示に基づく医療的ケアの質を高めることやご家族との信頼関係の強化（ご不安事項の払拭）、ケアプランを基本とした多職種協働によるチームケアの強化を図っていきたいと思います。ご利用者が安心安全な生活を送るためにには職員間の「情報共有」は必要不可欠。看護師間の情報共有では、担当ユニット以外の大まかな業務の流れの理解も必要となることから、継続して相互研鑽を重ねることで連携強化を図っていきます。

～ご利用者に訊く～ 私の歩みかた

K.S様 73歳 慶和園在住1ヶ月

K.S様は蘭越町の生まれで、小学校1年生の時に俱知安町へ移り住み中学卒業から結婚されるまで印刷業者で働いていたそうです。25歳で結婚されお二人の息子さんをもうけましたが早くに旦那様が他界され、その後は飲食店などで働いて生計立て、子育てもされてきたそうです。話を伺うと「特に趣味は無いけど、昔から歌を聞くのが好きだった。若い時は西郷輝彦や橋幸夫だね。」と教えて下さいました。

慶和園には、9月に入所されたばかり。まだ慣れない事もある様ですが「ここのご飯は美味しいね、今の楽しみはご飯とコーヒーの時間。あとは氷川きよしがな。」と笑顔でお話されていました。



慶和園の役割
を考える

特別養護老人ホームについて



特別養護老人ホームユニットケア慶和園は、定員は60名、建物1階部分（本館20名・新館40名）にて運営しています。利用対象者は、介護保険制度上「常に介護が必要な要介護認定3～5の方」。（※要介護2以下の特例入所制度もあります。）要介護高齢者の暮らしを支える生活支援施設です。

誰しも、例え年齢を重ね介護が必要となったとしても自身の意向に沿った生活を送りたいもの。自ずと私たちスタッフには、ご本人（ご家族）の意向を基に「その方らしい要介護生活」をサポートしていくことが求められます。

また近年では、厚生労働省で推進する在宅看取りの体制強化策と新型コロナによる医療機関での面会制限の影響もあり、病院ではなく当園でのお看取りを希望される方も増えています。当園ではご本人（ご家族）にとっての「その方らしい最期」のサポートも大切な使命であると考えており、引き続き「要介護高齢者の生活支援施設」として、各人の「その人らしさ」を大切にした取り組みを進めて参ります。

～相手の心を想う～ 広報委員が考えたこと。

相手の心を想うとは、簡単のようですが難しい事だと私は感じます。果たして私は出来ているだろうか…と考えました。助けてもらえて当たり前ではないので職場ではご利用者や職員に「ありがとうございます」の言葉は常に意識し、伝えられるよう心がけていますが、家族にはなかなか素直に伝えられずにいるなあと感じました。娘たちにはよく「ありがとうございます」と言いますが、まずは母親の私がしっかり見本にならなければ改めて思いました。私自身も相手に想ってもらえるように、私も相手を想いながら感謝の言葉を伝えたいと思います。

広報委員 佐藤 瑛美莉

【2022年10月10日～11月の行事予定】

【10月】 【11月】

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 10日出張理容(サロンドシエル) | 3日 ご利用者の懇談会 |
| 12日 めいせいせらぎユニット
食事会
カメムシ駆除剤散布 | 7日 衣類出張販売(ヨシヤ)
13日出張理容(菅原理髪店)
14日出張理容(サロンドシエル) |
| 14日 養護外出企画 | 16日冬期間防災訓練 |
| 24日出張理容(竹山美容室)
養護ご利用者との懇談会 | 28日出張理容(竹山美容室)
30日 慶和園実践報告会 |
| 13、20、27日 ちょこっと体操 | 3、10、17、24日ちょこっと体操 |